

鍋CAD Ver8 CUT チュートリアル

【1】準備

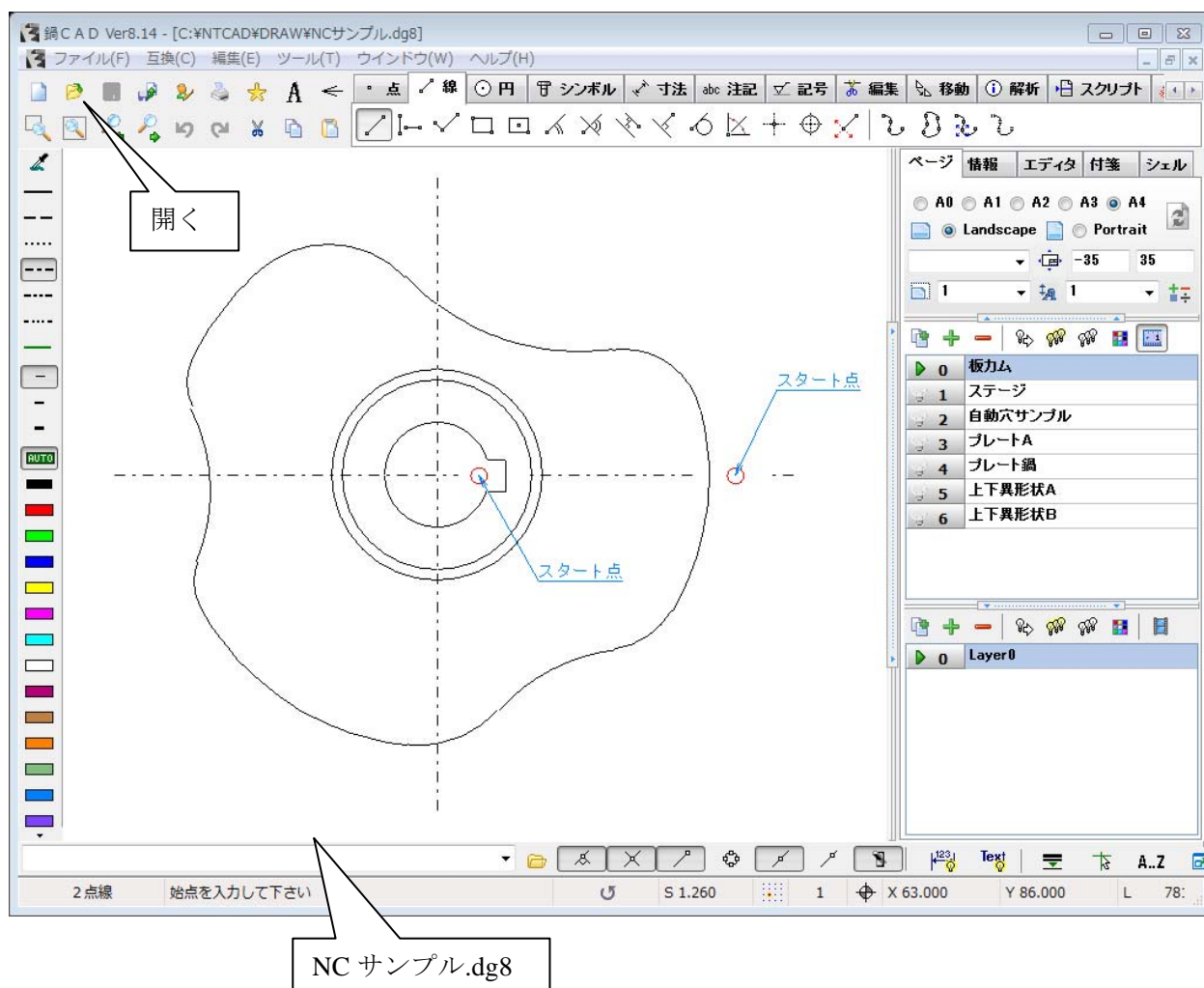
鍋CADのCUTを操作するには、事前にポストプロセッサ（以後ポストと略します）を作成及び整備しておく必要があります。

今回はCUTオペレーションの実習が目的の為に、サンプルのポストであるM750.CP8を使用します。

【2】作図

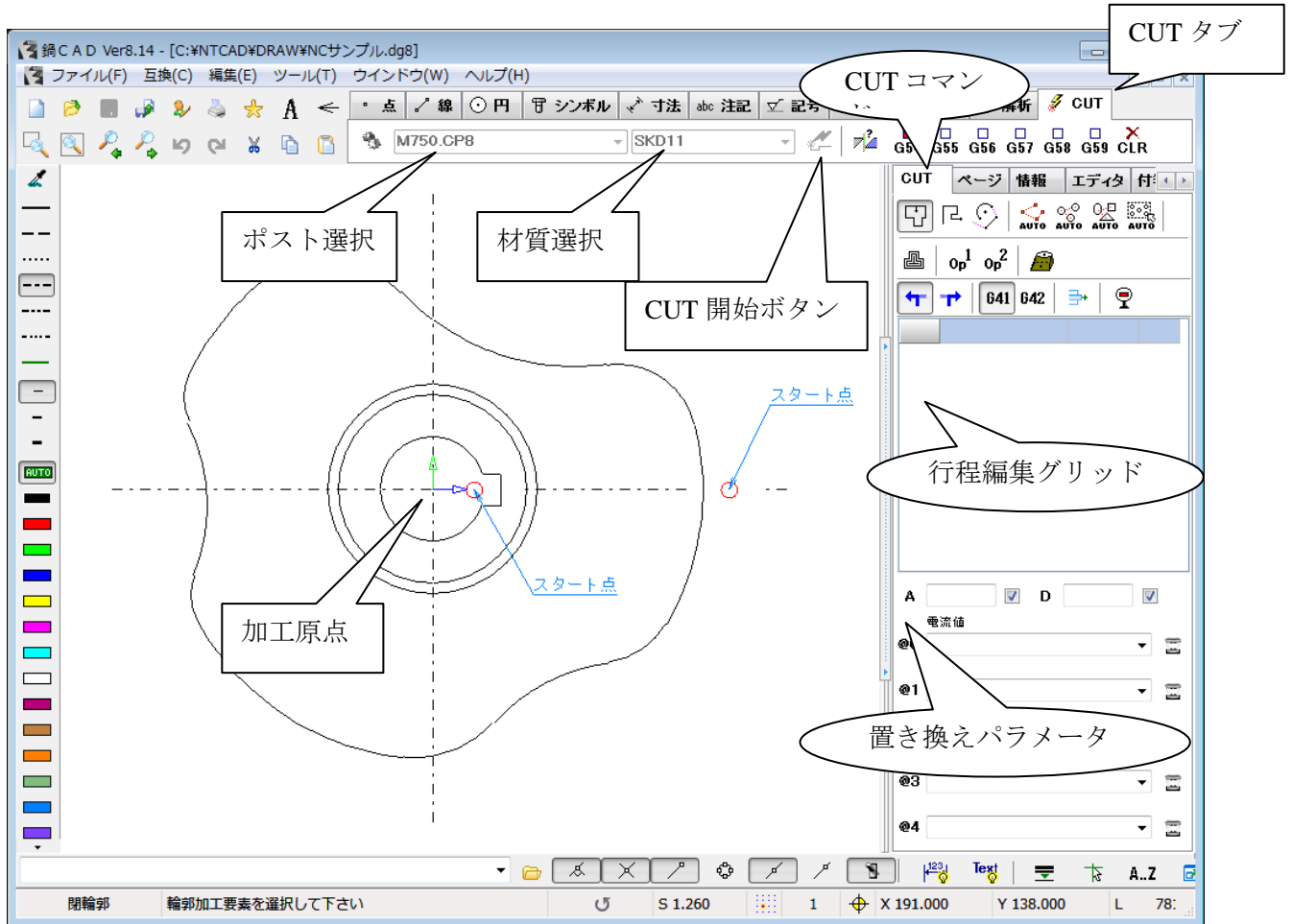
鍋CAD起動後に加工対象の図形を作図しておきます。

今回は作図済みのNCサンプル.dg8を開いて下さい。



【3】加工開始

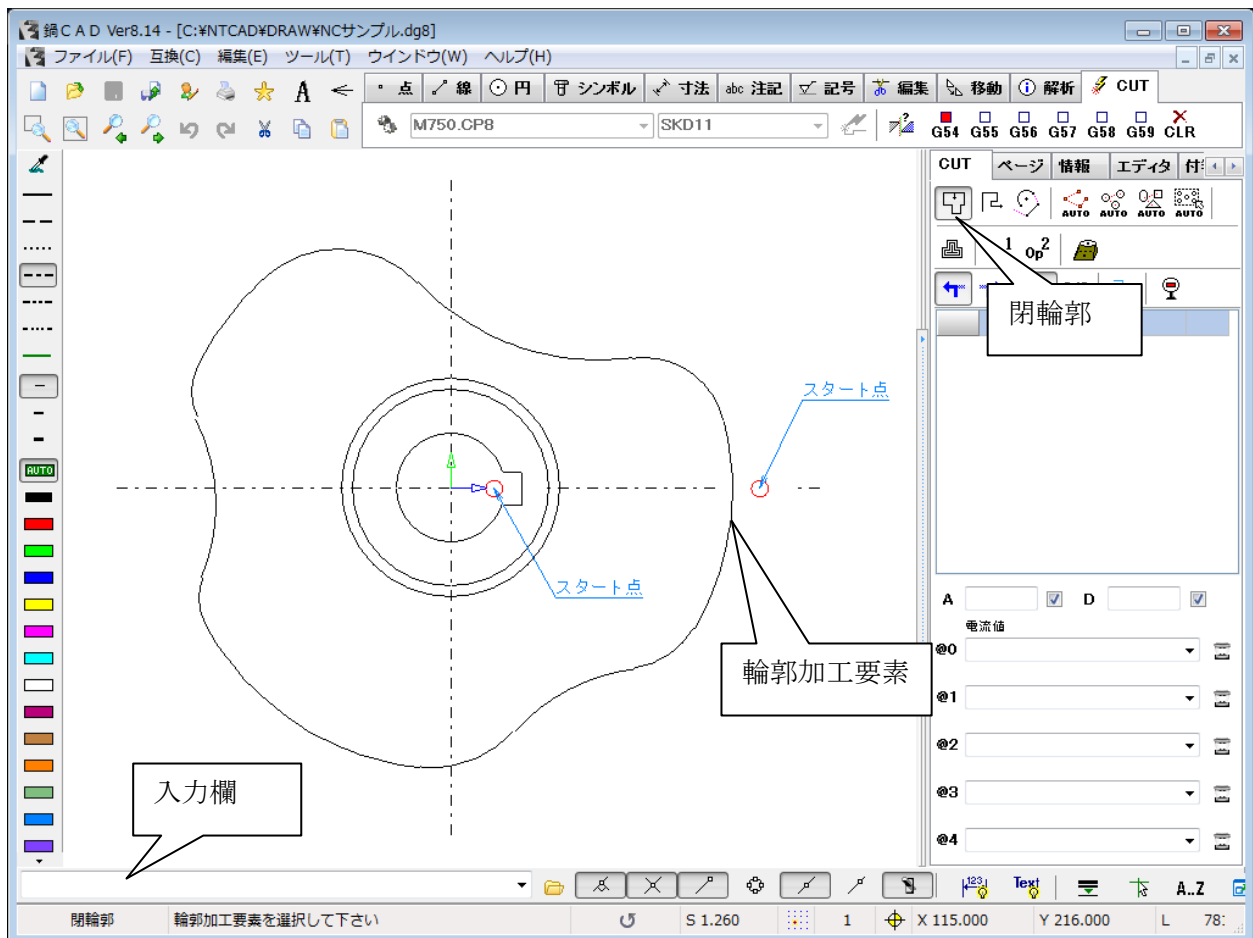
コマンドパネルのタブを CUT に変更してから、ポスト・材質を設定後に、CUT 開始ボタンを押します。次に、加工原点の問い合わせがありますので、任意の座標を入力します。すると、CUT コマンドがツールパネル上に表示され、加工オペレーションが可能となります。



※加工原点を元に G コードの座標はシフトしますので、作図位置を意識する必要はありません。

【4】一番使用頻度の高い閉輪郭加工を行います。

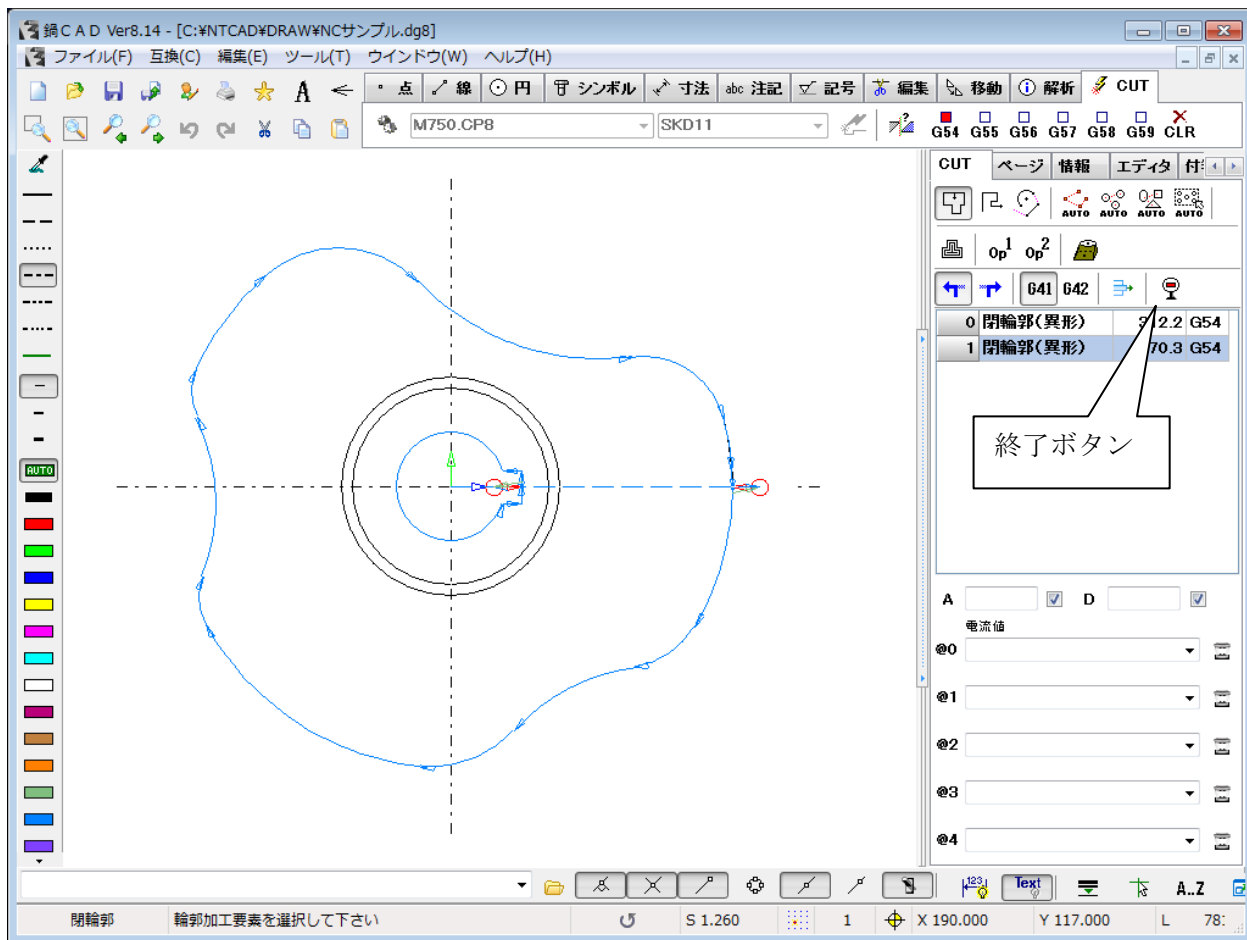
1. 閉輪郭コマンドボタンを押します。
2. 輪郭加工要素を聞いてきますので、輪郭開始要素を選択して下さい。
3. 次に開始点を聞いてきますので、開始座標を入力（要素のヒットでも可能）します。



後は加工対象分繰り返します。

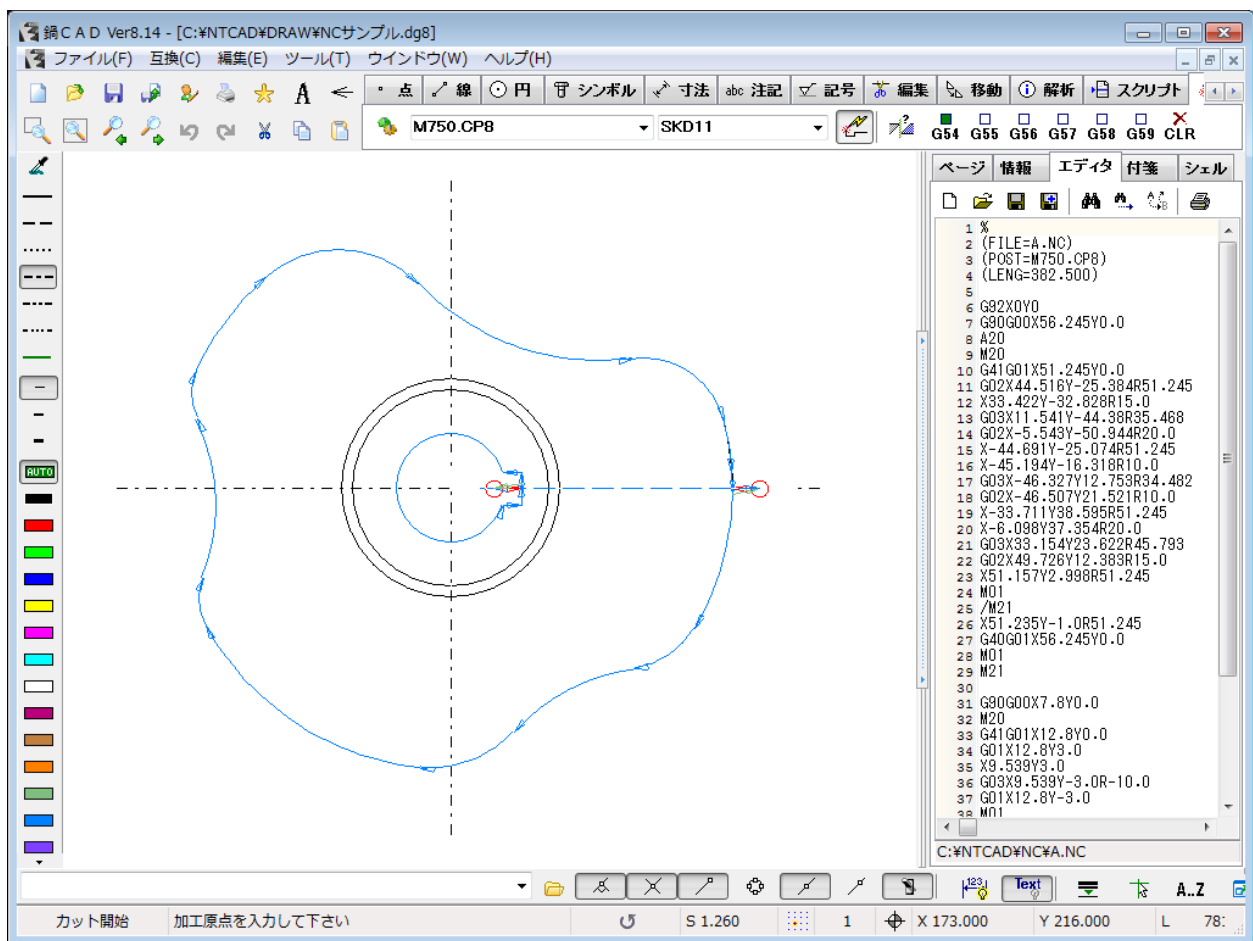
※行われたオペレーションは、行程編集グリッドと詳細グリッドに、履歴として記録されます。

加工軌跡が順次表示されますが、終わる場合は終了ボタンを押して下さい。



終了ボタンを押すと、保存ファイル名の入力を聞いてきますので、任意の名前で保存して下さい。

保存された NC データは、自動的にエディタに読み込まれて表示されます。
※不要な場合この自動読み込み機能は環境設定にて変更出来ます。



以上で CUT オペレーションは終了します。